

だい ぶ かだい
第5部 課題

この用紙は、大会当日使用しますので、必ずご持
参ください。

だい かい
第15回

まいにち にゅうりよく
毎日パソコン入力コンクール

がつ たいかい
6月大会

か だい
【課題】

だい ぶ わぶん しょうがくせいこうがくねん
第5部 和文A 小学生高学年

かんようく
ことわざ・慣用句②

せいげんじかん ぶん
制限時間5分

とうじつ ちゅういじこう
【コンクール当日の注意事項】

- この用紙を拡大・修飾などして、当日使用しても問題ありません。
- 団体責任者の指示にしたがい、18桁の参加番号を半角数字で入力してください。
- 課題の入力はすべて全角文字でおこなってください。スペースと改行も字数に数えます。ただし最終行はのぞきます。

※この課題は、小学館 例解学習ことわざ辞典 第二版より引用しました。
(文字数1,700字程度)

かだいぶんしょう きんそくもじ
〈課題文章の禁則文字について〉

毎日パソコン入力コンクールでは、引用した文章を原文のままソフトに取り込んでい
るため、行頭、行末に禁則文字が来る場合があります。課題文章のPDFファイルど
おりに入力すると正解になります。

しゅさい
主催

まいにちしんぶんしゃ
毎日新聞社

いっばんしゃだんほうじん にほん のうりよくけんていいんかい
一般社団法人 日本パソコン能力検定委員会

こうえん
後援


そうむしょう
総務省



もんぶかがくしょう
文部科学省


こうせいろうどうしょう
厚生労働省


けいざいさんぎょうしょう
経済産業省ほか



ぎょう じづめ ぶんしょう にゆうりよく
1行32字詰で、つぎの文章を入力してください。


※  の箇所かしよ かいぎようで改行 (Enter) してください。


 みみ いた
耳いたが痛いたい 



じゃくてん しっぱい
弱じゃくてん点しっぱいや失い敗きを言いわれて聞きくのがつらい。 


きみ きみ いた はなし
君きみには耳きみが痛いたい話はなしになるが聞きいてくれ。 


 ひゃく しょうち
百ひゃくも承しょうち知 



じゅうぶん し
十じゅうぶん分に知しりぬいていること。 


ひゃく しょうち
そのことひゃくは、言いわれなくとも百ひゃくも承しょうち知だ。 


 ごう
業ごうを煮にやす 



はら た
腹はらを立たてていらいらす。 


ごう に
バスがいつまでも来こないので業ごうを煮にやす。 


 かお た
顔かおが立たつ 



まも た
めいよまもが守まもられる。めんぼくたが立たつ。 

きん と かお た
金きんメダルとを取とり、これかおで顔たが立たった。 


 はちよう あ
波はちよう長あが合あわない 


き も おも つう
気き持もちや思おもいが通つうじない。 



かれ はちよう あ
彼かれとはどうも波はちよう長あが合あわない。 


 てごころ くわ
手てごころ心くわを加くわえる 


あいて ば じじょう おう かげん
相あいて手ばやその場じじょうの事おう情かげんにあんじて、ほどよく加か減げんする。その場ばにあんじてあ



かた て かげん
つかい方かたをゆるやかにする。手て加か減げんをする。 


あいて ちい こ てごころ くわ
相あいて手ちいはこまだ小こさい子さいだからと手てごころ心くわを加くわえる。 


 ま
目まのああたたりにする 



め まえ み じっさい め
目めの前まえでみる。実じっさい際さいに目めにする。 


じ こ ま
ちちょうじどこいまああわあせせて事じ故こを目まのああたたりにする。 


 かほう ね ま
果かほう報ねは寝まて待まて 

こううん ま しぜん
幸こううん運まはああせせらせずに待まっまていれいば、いつしかは自し然ぜんにやってくるものだ。 


きなが ま かほう ね ま
ああせせらせずに気き長ながにま待まとうよ、果かほう報ねは寝まて待まてだ。 


 かたずをのむ
かかたたずをののむ 


いき きんちょう
どどうなることかと息いきをのんで、緊きん張ちょうしている。 

いっさいいちどう
一挙一動をかたずをのんで見守る。 





どんぐりの背比べ 


どれもみな変わりばえがなく、特にすぐれたものがないこと。 

どの作品もどんぐりの背比べで、そう変わらない。 





ペンは剣よりも強し 


ことばの力は、武力よりも大きい。 

ペンは剣よりも強し、圧力をはねのけ、新聞は真相を暴いた。 





能ある鷹は爪を隠す 

本当に実力や才能のある人は、やたらにそれを見せびらかしたりはしない。 

能ある鷹は爪を隠すだね、君がこんなにも歌がうまいとは。 





夜を明かす 


寝ないで朝をおかえる。夜が明けるまで寝ないでいる。 

友だちと話しこんで夜を明かす。 





仏の顔も三度 


どんなにおとなしく、やさしい人でも、何度もばかにされたり、ひどいことをされたら、しまいには腹を立てる。 

とうとうがまんできず、仏の顔も三度とばかりおこりだす。 





本末転倒 


大事なことと、どうでもいいことをさかさまにすること。 

練習で疲れ果て、本番の試合で力を発揮できないとは、本末転倒だ。 




色めき立つ 

何かが起こりかけて、人々が急に活気づいたり、あわてたりする。 

逆転のチャンスが来て色めき立つ。 



いたれりつくせり 

細かな所まで心配りがされていて、不満な所がない。 

いっこう
一行は、いたれりつくせりのかんげいを受けた。↵

↵
こころ
心がはずむ↵

よるこ きたい こころ
喜びや期待で心がうきうきする。↵

もうすぐ夏休みだと思おうと心がはずむ。↵

↵
こころ
心にとめる↵

き かける。 おぼ 覚 えて おく。 わす 忘 れ ない よう に す る。↵

こころ ことば を ノート に 書 き 取 る。↵

↵
お
ふに落ちない↵

なっとく
納得がいかない。↵

お 落ち ない 点 が あ れ ば 質 問 し て く だ さ い。↵

↵
こう
けいせつの功↵

まず なか くらう べんきょう
貧しい中で苦勞して勉強すること。↵

けいせつの功 なる て、 見 事 合 格 す る。↵

↵
ちや こ
お茶の子さいさい↵

かんたん
簡単にできること。たやすいこと。↵

ひゃく およ ちや こ
百メートル泳ぐくらいは、お茶の子さいさいだ。↵

↵
うご
てこでも動かない↵

ほんな ほうほう を と っ て も、 そ の 場 を 動 か ない。 ど ん な こ と が あ っ て も、
かんが え や き も ぜ っ たい か
考 え や 気 持 ち を 絶 対 に 変 え ない。↵

い っ た ん 言 い 出 し た ら て こ で も 動 か ない。↵

↵
したつづみ う
舌鼓を打つ↵

おい しく て 舌 を 鳴 ら し な が る 食 べ る。↵

めいぶつ べんどう したつづみ う
名物のウナギ弁当に舌鼓を打つ。↵

↵
て あせ
手に汗をにぎる↵

み たり き いた り し な が ら、 きんちょう せいふん
見 たり 聞 いた り し な が ら、 緊 張 し たり 興 奮 し たり す る。↵

て あせ たいせっせん
手に汗をにぎる大接戦。↵



念を押す

さらに確かめる。重ねて注意する。

必ず六時に起こしてと念を押す。



所変われば品変わる

土地がちがうと風俗・習慣・ことばなどもちがう。

所変われば品変わるで食事の仕方もちがう。



背水の陣

もうこれ以上後にひけない立場にたち、決死の覚悟で、全力をつくすこと。

背水の陣で試合にのぞむ。



目鼻を付ける

だいたいの見通しを付ける。

秋には景気も回復すると、目鼻を付ける。



日の目を見る

うもれていたものが、世の中に出て人に知られ認められる。

うもれていた作品がやっと日の目を見る。



前代未聞

今まで一度も聞いたことがないこと。非常にめずらしいこと。

前代未聞のちん事件。



拍車をかける

一段と力を加えて、進行を早める。

発表会が間近にせまったので、練習に拍車をかける。



適材適所

人を、その人の才能や能力にふさわしい役目や仕事につけること。

適材適所に人を配置する。



みっかてんか
三日天下

みじか あいだ いちい ざ けんりよく え
短い間だけ一位の座や権力を得ること。

みっかてんか しゅい あけわた
三日天下で首位を明渡す。



ひゃくぶん いっけん
百聞は一見にしかず

ひと ひゃっかい き じっさい じぶん いっかい み ほう わ
人から百回聞くより、実際に自分で一回見る方がよく分かる。

おお ひゃくぶん いっけん
こんなに大きいとは、百聞は一見にしかずだ。
